



## Press Information

VPR16-028

2016年4月25日(月)

フォルクスワーゲン グループ ジャパン 株式会社

### ラリー・アルゼンチンでオジェ選手が2位、ミケルセン選手も3位表彰台を獲得

- 最終日に驚異的な追い上げを見せたオジェ選手が2位フィニッシュ。
- ポロ R WRC デビュー以来の通算表彰台獲得数が74回に伸びる。



2016年世界ラリー選手権(WRC)第4戦「ラリー・アルゼンチン」が、4月21日～24日にブエノスアイレスから700km北西にある湖畔のリゾート、ヴィラ・カルロス・パスを中心に開催されました。

前戦ラリー・メキシコで12連勝を達成し、自身の持つWRC連勝記録に肩を並べたフォルクスワーゲン・モータースポーツは、カレンダー唯一の南米ラウンドで前人未踏の新記録を狙いました。

WRC通算34勝を誇るディフェンディング・チャンピオン、セバスチャン オジェ選手は、アルゼンチンだけは未勝利でした。自身初優勝でチーム新記録に花を添えようとしたのですが、惜しくも14.3秒差の2位でフィニッシュすることになりました。アンドレアス ミケルセン選手は、成熟した走りを見せて3位表彰台に登壇しました。ヤリーマティ ラトバラ選手は、首位走行中にクラッシュ。しかし、その後も競技を続け、チームに貢献しました。

月面を思わせる名物スペシャルステージ(SS:競技区間)、「エル・コンドル」をはじめ、最終日曜日のSSは道幅が狭く、しかも岩がちです。一方、初日にはパウダー状の路面も登場するなど、路面や道幅が変化に富み、攻略が難しいことで知られています。初秋のアルゼンチンは、霧や雨が多く、突然の増水のおそれがあるため、川渡りには細心の注意が必要となります。また、15年ぶりに復活するルートもあるなど、入念なレッキ(事前走行)による正確なペースノート作りが重要なポイントです。

木曜夕刻、コルドバ市内で1.5kmのストリート・スーパーSSが開催されました。ライトアップされた橋と背景の高層建築が美しいコントラストを見せる中、オジェ選手がトップタイム。ミケルセン選手とラトバラ選手は、11位と12位でしたが、上位との差はほとんどありませんでした。

本格的な競技が始まる金曜日の舞台は、ラリーHQ南の8SS。ラトバラ選手がいきなりリズムを掴み、濛々と砂煙を上げながら一気にラリーリーダーに躍り出ました。オジェ選手は、トップスタートのハンディを負いながらも、7.9秒差の2位につけています。ミケルセン選手も4位につけ、フォルクスワーゲンの13連勝を1-2-3フィニッシュで飾ろうとしていました。

土曜日の 6SS は、ラリーHQ 北にレイアウト。この日 5 つ目の SS となる SS14 で、首位ラトバラ選手が路肩の岩にヒットし、ポロ R WRC は何度も横転を繰り返してようやく停止しました。このアクシデントにより、マシンは大破してしまいました。他方、オジェ選手はトップと 29.8 秒差の 2 位、ミケルセン選手はチームメイトから 14.5 秒差の 3 位につけ、最終日の 3SS で逆転にわずかな望みを繋げました。

最終日のオジェ選手は、3 度の WRC タイトルホルダーの誇りを賭けて猛アタック、一時は首位との差を 2.6 秒まで切り取りましたが、惜しくも届かず 2 位フィニッシュし、ポイントを積み重ねました。ミケルセン選手は、無用なリスクを冒さずに 3 位表彰台を獲得し、精神的な成長を見せました。昨日、マシンに大きなダメージを受けたラトバラ選手は、クルーの献身的な作業の甲斐あってラリー2 ルール(リタイヤ当日の未完走 SS をタイムペナルティに換算して、翌日以降の競技継続を認め)により、最終日も走行、貴重なマニファクチャラー・ポイントをもたらしました。

第 5 戦「ラリー・ポルトガル」は、5 月 19 日～22 日にポルト北のマルシニョスを中心に開催されます。

#### [終了後のコメント]

##### ■ フォルクスワーゲン モータースポーツ ディレクター: ヨースト カピート

「改めて WRC の面白さを痛感しました。ラリー・アルゼンチンは、WRC 屈指のアピール度を持っています。オジェはギリギリのところまで勝利を逃しましたが、ウィナーのパッドンに祝福の意を表しましょう。彼は勝者にふさわしいパフォーマンスを見せました。」

##### ■ カー#1: セバスチャン オジェ(フランス) 最終結果: 2 位

「負けて悔しいのは当然ですが、今回は受け入れやすい状況です。ヘイデン(パッドン)と私は同一条件で走行しました。そのうえで、今回は彼が上回っていました。再び表彰台の頂点に復帰しようという意欲が強まっています。」

##### ■ カー#2: ヤリマティ ラトバラ(フィンランド) 最終結果: 16 位

「首位走行中にリタイヤするのは、本当に辛いです。岩にヒットした時に何かが壊れて横転が避けられませんでした。今日は気持ちを切り替えて、少しでもチームに貢献しようと思っていました。」

##### ■ カー#9: アンドレアス ミケルセン(ノルウェー) 最終結果: 3 位

「最初から最後まで、当初の計画どおりに走れました。とにかく今回もタフなラリーでした。その中で表彰台に立てたことが嬉しいです。しかも、アルゼンチンでは初の表彰台です。」

#### ■ FIA 世界ラリー選手権 第 4 戦ラリー・アルゼンチン最終結果

- |  |                  |
|--|------------------|
| 1. ヘイデン パッドン/ジョン ケナード(ヒュンダイ)           | 3 時間 40 分 52 秒 9 |
| 2. セバスチャン オジェ/ジュリアン イングラシア(フォルクスワーゲン)  | +14 秒 3          |
| 3. アンドレアス ミケルセン/アンダース イェーガー(フォルクスワーゲン) | +1 分 5 秒 2       |

#### ■ FIA 世界ラリー選手権 マニファクチャラーズ選手権ランキング(第 4 戦終了時点)

- |                       |     |
|-----------------------|-----|
| 1. フォルクスワーゲン・モータースポーツ | 117 |
| 2. ヒュンダイ・モータースポーツ     | 81  |
| 3. M-スポーツ             | 62  |

#### ■ FIA 世界ラリー選手権 ドライバーズ選手権ランキング(第 4 戦終了時点)

- |                            |    |
|----------------------------|----|
| 1. セバスチャン オジェ(フォルクスワーゲン)   | 96 |
| 2. ヘイデン パッドン(ヒュンダイ)        | 57 |
| 3. マッズ オストベルグ(フォード)        | 52 |
| 4. アンドレアス ミケルセン(フォルクスワーゲン) | 48 |
| 6. ヤリマティ ラトバラ(フォルクスワーゲン)   | 27 |